

広報委員長 佐藤 高晴

私の支部長就任時の抱負を会報「山
〔No.890-2019/7/20〕」で述べましたが、越
後支部の良き伝統を發展させて新規事業を
提案する「温故知新」をモットーにした支
部運営を前提にしています。寿像修復計画
も支部伝統継承遺産として保護管理してい
く事業であり、越後支部会員を始め全国日
本山岳会会員にも、高頭翁の功績を広く情
報発信していきたいと思います。高頭翁に
ついては、日本山岳会編「越後の旦那様」
高頭仁兵衛小伝（1970年発行）」や
「日本山岳会百年史（2007年発行）」な
どで知られており、先月の会報「山」9月
号でも簡略な短文で業績紹介しており詳細
は割愛しますが、日本山岳会創立後の明治
後期から大正期に渡り財力と労力を惜しま
ず、会務基盤を確立し現在の日本山岳会の
礎を築いた最大の功労者です。

これを機に、越後の登山界に大きな功
績を残した偉大な多くの先輩達の人物史
を、「越後山岳14号」にまとめるつもりで
す。山岳古道調査を含めた支部行事や支部
山行は、全員参加できる体制で地区担当者
を配置しました。越後YOUTHの若手メ
ンバー同士の仲間作りも進めておりますの
で、気軽に参加して欲しいと考えています。

「弥彦・国上エリアの 持続可能な利用を促進 するプロジェクト」

山行委員長 渡辺 茂

【本事業の目的及び内容】

本事業は越後支部が一般財団法人新潟県職員互助会に申請していた「弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクト」事業で、5月に採択され、弥彦山・国上山の周辺整備事業、環境保全啓発資料作成等を含めた事業費として、令和3年度公益事業助成金100万円で15団体で取り組む事業です。

弥彦山や国上山のエリアは登山道や散策ルートが整備されており、登山やハイキングなどに幅広い年齢層の方が訪れ、新潟県央地域の観光資源として地域経済にも大きく貢献しています。しかし、冬の強風雪や夏季の猛暑など厳しい気候に加え、登山者の増加等により、各コースの指導標や植生などの損傷が激しく、利用者の安全性や快適性が損なわれ、指導標や案内板の設置・修繕、植栽等の回復に取り組む必要があります。これまで、弥彦山塊の登山道整備は地元の山岳会等がボランティア的に担ってきましたが、メンバーの高齢化も進み、広範囲の登山道の状況を把握することが難しくなっており、このままでは、植生の保護、自然公園の適正な利用が継続できなくなるのが危惧されています。そのため、本プロジェクトでは当会越後支部を中

心に、行政や観光協会、地元山岳会等の連携により、自然環境の保全や植生の保護に取り組む必要性を啓発し、環境整備等の活動への参加を促し、生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、森林の保護、土地の劣化の防止・回復及び生物多様性の損失を止めることを目指しています。

環境整備事業、草刈りと清掃活動報告

・日 時…令和3年7月25日(日)

7時30分～10時30分

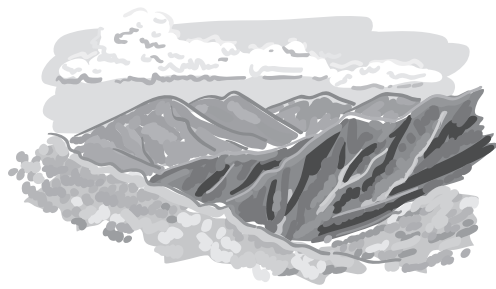
・場 所…弥彦山山頂から大平園地周辺
・参加人数…47名

連日の猛暑で熱中症予防のため当日の登山道、遊歩道の草刈り、清掃活動は10時30分を終了予定で実施しました。この度の活動は2班に分かれ、1班は大平園地登り口から弥彦山、奥の院までのゴミ拾いと遊歩道にはみ出した草刈りおよび奥の院休憩地と八枚沢ルートへの降口の草刈り、2班は大平園地登り口駐車場周辺の草刈りおよび駐車場に散乱している「たばこ」の吸い殻、花火などのゴミ拾い、大平園地への階段両脇と園地周りの草刈りを実施しました。今回の活動は暑くなることが予想されたことから、スタッフ10名は7時30分に大平園地登り口に集合し当日の活動予定と作業について確認、各自の任務について徹底しました。また、今回の各団体からの参加者、ボランティアの募集については30名を予定しましたが、総勢47名と大勢の方々から協力を頂くことができました。また、遠方の方は柏崎市、長岡市、見附市、新潟市から早

朝に家を出て駆けつけて頂きました。8時朝礼、大勢の方から参加いただいたことについて日本山岳会越後支部長 桐生恒治が清掃活動の主旨と参加への感謝の気持ち伝え、事務局が当日の作業計画について説明し、熱中症予防のため水分補給や草刈り機による怪我に注意するようお願いした後、各班に分かれ作業を開始しました。作業は予定通り進み、特に大平園地周辺や階段両脇の草は刈り取られ綺麗にすることができました。大勢の方々から猛暑の中の活動にご協力を頂き感謝します。

なお、今回の環境整備事業は9月25日(土)、10月30日(土)を予定しており、大勢の方が参加頂くことを期待しております。

(写真…多田政雄)



高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金者ご芳名簿

(敬称略、募金受付順入金受理票名義で表記)

2021年(令和3) 7月20日現在

20口(10万円): 坂井広志、日向祥剛、弥彦観光協会、桐生恒治

10口(5万円): 松井潤次、大門建設株式会社、

6口(3万円): 古野淳、脇屋雄介、日本山岳会四国支部、山崎幸和、後藤正弘、
齋藤チヨ4口(2万円): 新潟峡彩山岳会、宮崎幸司、遠藤家之進正和、小山一夫、
橋本正巳2口(1万円): 佐久間雅義、森武昭、佐藤レイ子、荒井謙之輔、田邊信行、中原剛、
廣井博行、佐藤弘、飯沼和男、梶正彦、尾上昇、八木原罔明、
坂西徹朗、大山昭一、高木莊輔、白根一、大塚幸美、高辻謙輔、
平山善吉、久保田賢次、節田重節、松井拓也、越後吉田山岳会、
大山光一、日本山岳会宮崎支部、酒井定勝、日本山岳会群馬支部、
野澤誠司、日本山岳会福島支部、日本山岳会千葉支部、小林頼雄、
松下征文、目崎貞良、北原孝治、蕨澤庸昭、川崎吉明、土田公一、
日本山岳会広島支部、山田智子、本間宏之、池本順平、服部尚、
佐藤博(江南区)、木戸七七子、平田大六、1口(5千円): 日本山岳会静岡支部有志(6千円)、遠藤俊一、根津洋子、今成幸夫、
間瀬泉、石山政雄、小田捷寿、遠山博明、寺田俊哉、山際新一、
込田伸夫、齋藤トモ子、日本山岳会東海支部、谷中隆明、高原三平、
佐々木礼子、菅原廣男、岡田陽子、藤井与嗣明、藤木俊三、
坂井美江、遠山實、多田政雄、多田和広、中俣正夫、渡辺茂、
東原進、松坂良一、森沢堅次、原田敬子、江口健、春日良樹、
和田甲臣、和田星子、久保田千歳、吉田理一、和田守、新島二郎、
成川隆顕、桜井昭吉、玉木大二郎、小泉良夫、楡井利幸、井口光利、
井口礼子、阿部信一、佐竹信幸、中川久、今田明子、白石丑太郎、
立入清、北上文雄、佐藤高晴、羽賀一蔵、豊島洋一、上村幹雄、
茂木完治、小林京子、青池格、佐藤博(関川村)、三堀正純、
小林清勝、平野彰、松尾知弘、青木督平、佐藤邦雄(2千円)

以上

合計1,558,000円



①寿像碑正面レリーフ（背後に日本海と佐渡島を望む）



②寿像碑背面名板（正面は越後の山並みを望む）



③ 弥彦神社神官により寿像碑修復のお祓い



④ 弥彦スカイライン駐車場登口に案内看板を設置

第4回子ども登山教室 事前学習会の実施、 本番は中止に！

自然保護委員会 鶴本修一

昨年はコロナ対応でこの事業は中止に。今回は、内容を縮小した形で企画し、春からの実行委員会準備を整えてきました。参加申し込みは子ども13人、保護者6名。運営スタッフ19名による体制を整えて8月1日に事前学習会を実施しました。

参加者が集い、コロナ対応に留意しながら、本番に向けた情報の共有を図りました。桐生委員長挨拶。自己紹介と続きます。

○学習会①しろ池の森の特徴 赤野 菊生さん

自然観察や登山エリアとなる地形や歴史、ブナ林などの森林の特徴を学びました。

○学習会②糸魚川ー静岡構造線・塩の道南部 鶴本修一

戸倉山の位置、山頂から展望できる山々、自然観察のポイント等をスライド解説。

○学習会③安全登山と準備について 玉木大二朗

体調や天候を見極めて無理はしないこと。かく汗と水の飲み方、服装や持ち物等説明。質疑後、後藤副委員長の閉会の挨拶で終了。

8月6日夜、急激なコロナ感染拡大状況と台風接近による天候悪化等の状況を鑑み、8日の登山教室の開催を断念、中止を決定。

参加者へ中止の連絡。親子ともに、楽し



8月1日(日) 事前学習会の様子

根知・大神堂公会堂

みであつたが残念の一言。次年度の開催に期待しているという熱いメッセージが。

飯豊黎明の人

「藤島玄」展の開催

顧問 遠藤 家之進 正和

「新潟から見える山々のすべてを登り尽くす念願を立てた」の志を立て、越後の山々を踏査し、我々越後岳人のバイブル的存在の「越後の山旅」を著すために所蔵した蔵書6000冊余りと地図がご遺族から関川村に寄贈されてから30年がたった。そして越後支部有志を中心とした「藤島蔵書研究

会」を立ち上げ閲覧できるよう整備して5年余が過ぎた。

この度、蔵書を管理する関川村教育委員会の主催で「せきかわ歴史とみちの館」に於いて、飯豊黎明の人「藤島玄」展が2021年7月3日(土)～9月3日(日)の期間で開催され藤島玄氏の遺品・記録が展示された。

村からの協力依頼を受け、どんな内容で展示するのか研究会でも検討し、「越後の山旅」と飯豊連峰修正図の発行に尽くしたことを知らしめる内容で展示すればよいのではないかと落ち着く。

6月24日(木)、藤島玄氏が使用した山道具をはじめ、出版物、年譜、写真集、登山ノート、関川村との関係を示す写真集、飯豊山供養塔の拓本(本望英紀氏作成)を村民ギャラリーに運び込み展示を終了。しかし、何か物足りない。飯豊の写真が無いのだ。急遽、二王子岳から撮影した飯豊連峰と新潟から見える越後山脈のパネル(鈴木勝利氏撮影)2枚を図書館から持参して展示する。

これに加えて、佐久間雅義氏が藤島玄氏の写真を整理してビデオ放映できるようセットし、平田大六氏からは展示物の説明文と解説が添えられ、分かりやすくなった。さらに展示物について説明できたほうが良いということで、開催期間中、会員の協力を得て、できるだけ会場に詰めて質問等に対応することとした。

今回の展示会から藤島玄氏の何を知らしめるのか。多くの岳人に影響を与えたも

のをどう見せたら良いのか。「越後の山旅」と飯豊連峰修正図の発行に他ならないが、それまでに至る整理と情報の収集に費やした労苦を知ってもらいたく、それらをも展示した。特に、63冊整理された登山ノートの基になったメモ帳が1冊しか残されていなかったものの、びっしりと書かれた文字が残るメモ帳をみると、藤島玄氏の記録に対する思いがひしひしと伝わってくる。

それにも増して、修正図に至っては、現地調査はもとより、沢名・地名等不明な点を問い合わせ、地図に書き込んでいく。びっしりと書き込まれた下図を見ると、藤島玄氏の飯豊に対する執念が垣間見え、妥協を許さない藤島玄氏の姿が思い出された。文字で記録を残すことの大変さ、その大切さを知ってもらいたいと願うものである。

あらためて平田氏が見学者用に書きした「冬山覚え書 日本山岳会越後支部 藤島玄」を読み返した。

祝！梅海新道開通50周年記念 フォッサマグナミュージアム.. 特別展の報告

〜アルプスと海をつなぐ 大縦走路の軌跡〜

梅海岳友会会長 鶴本修一

7月22日に開幕し、9月26日に閉幕した特別展は、コロナ禍にあったが県内外からの多くの来館者で日々賑わい、盛況裡に終了した。

昨年の4月、博物館館長さんとの懇談の中で、梅海新道開通50年を話題にした。その時、博物館と山岳会が協働体制で特別展を開催する方向が決まった。梅海岳友会としては、開通半世紀を祝うのに最高の場ができる喜び、勇気づけられた。博物館が今までに開催してきた特別展は、あくまでも主体は博物館。今回のように地元の山岳会との共催は初の取組となった。

博物館は、昨年末にこの企画を文化庁補助事業「地域と協働した博物館創造活動支援」となるよう申請手続きを整えてくれた。

今年に入ってから、特別展をテーマとした博物館と山岳会との合同ミーティングを重ね、内容の具体化を検討。故小野健さんのご家族の協力や文化庁からの事業認可も得られ、プランが進み本展が実現した。

博物館・ふるさと展示室では、糸魚川市内の名山を糸魚川―静岡構造線を境界に東西に分け、大地の成り立ちの違いと特徴を解説。研修室への通路には、小野さんが毎年作成し、多くのファンに親しまれたカレンダーと小野さんの等身大パネルが来場者を迎えてくれた。来場者は、小野さんのパネルに並んで記念写真を撮影して楽しんでいた。

部屋に入ると、梅海新道開拓の歴史解説と小野さん愛用の数刈り道具や登山用具などが並ぶ。その中に小野さんの小さな手帳が開示されていた。記された小さな文字。開拓作業や登山体験などを、細かに記録されていたことを学ぶ尊い資料だ。

合わせて、0m〜3000mを結ぶ梅海

新道の地質・地形・動植物の変化などを図解資料で示す。中に、ライチョウのはく製が目を引き。梅海新道の高山帯に生息する特別天然記念物であり絶滅危惧種。今回の企画に大町山岳博物館・環境省・文化庁の認可を受けて、糸魚川市で初の展示となり、市内の子どもたちへの教育に好機到来となった。ライチョウの動画を注視する子どもたちの瞳が、一段と輝いていたことも印象的。

シアター室では、大スクリーンを通して糸魚川の山々のバーチャル体験を楽しんだ。さらに、さらら青海の梅海新道写真展や白馬岳黎明期と木地屋集落の企画展も同時開催されて、山岳都市・糸魚川を学び・発信する記念事業が、成功裏に終了した。

峠シリーズ

清水峠

関東への直路―清水越え―

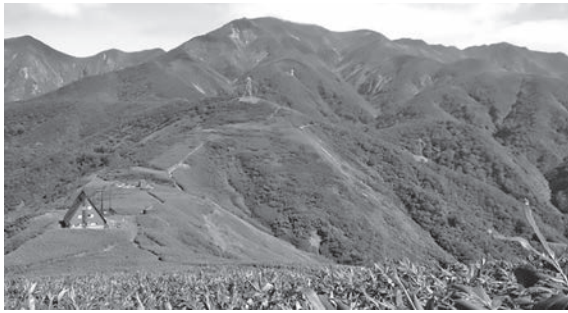
井 春文

清水越えは、標高1448メートルの県境を越える通路で、清水部落から登川の上流に向かって谷間を詰め、稜線の鞍部を越して群馬県へ出るのである。この通路は、いつごろから開削されたか明らかではないが、古い峠越えである。関東へ抜けるには三国越え（三国峠）よりも近いが、深い谷、急峻な山、激しい気象変化などのため夏も利用者が少なく、冬期間は途絶状態であった。現在の清水峠の呼称を古い記録による



と「直越」（すぐこえ）上杉古文書には「直路」（すぐぢ）とある。また地元の古い絵図によると「馬峠」（うまとうげ）の表記があり、峠と七つ小屋山の間に馬峠山、七つ小屋山は丸山の表記がある。清水越えのルート

は、十五里尾根ルート、井坪坂ルート、冬路ノ沢ルート、丸の沢を詰め大源太山と七つ小屋山の鞍部に出る丸の沢ルートがあった。十五里尾根は上杉謙信が関東へ往来したということで謙信尾根とも呼ばれる。国



清水峠

境稜線を西に進み七つ小屋山、蓬峠から湯
檜曾川沿いに土合を経て湯檜曾に至る通路
を「湯のひそ越え」と称し、丸の沢ルー
トはこれ
を利用し
たものと
思われ
る。また
峠から稜
線を東に
進み朝日
岳、笠ヶ
岳間の鞍
部から宝
川溪谷を
下り、水
上町藤原



謙信尾根と丸の沢出合い

を経て粟沢村に至る通路を「粟沢越え」と
称した。上杉方が関東出陣で使用した清水
越えも、防衛上は困難なこと、農民たちの
逃散事件等の理由から度々通行の規制がな
された。さらに道路事情も悪く、道中に休
息、宿泊施設もなく、険しい山路と激しい
気象の変化もあり、江戸末期までは利用者
が少なかった。少ない通行者も大部分が上
田地域の者で、関東へ出稼ぎに行くときや、
お伊勢参り。或は関東の札所巡りで通るく
らいであった。冬期間は勝手手のわかる猟師
が通るくらいで途絶していた。依って関東
への本道である三国峠がますます重要にな
り、交通が頻繁になった。しかし明治に入
り、関東への最短路として注目されるよう
になり、明治政府は清水越えを開削するた
め実地見分を行い、東京府、熊ヶ谷県など
により道路の大改修がなされ、明治7年、
上州側、越後側の要所には休憩所、茶屋な
どが充実した。これにより旅人の往来、荷
物の輸送は一層多くなり、清水部落は宿所、
荷物の中継所として賑わった。さらには明
治14年、新国道として大規模な整備が始ま
り18年9月には、井坪坂東側斜面に新道が
完成した。しかしその年の冬は特に大雪雪
があり、まだよく固まらない新道は、至る
所大崩落で通行不能となってしまった。修
復工事行われていたようであるが、明治
21年には完全に廃道になった。その後、六
日町の民間人の手により井坪坂が整備され
たりしたが、三国峠の整備、明治26年の信
越線の開通、昭和6年の上越線の開通によ
り清水峠は人跡未踏のような通路と化した。

群馬側はいずれの道も残っているが、その
呼び名が間違いやすい。明治18年に開通し
た国道8号（現291号）は旧国道の国の
字を略し旧道と呼ぶ。道標にも記されてい
る。しかし明治7年に改修された蓬峠から
白樺小屋を通り湯檜曾川に沿って土合に出
る道は新道と呼ばれた。従って旧道よりも
新道の方が古いのである。現在、峠には信
濃川水系の電力を関東に送るJ Rの送電線
監視小屋と白崩避難小屋がある。清水越え
の通路は、冬路ノ沢、丸の沢ルートは廃道
となり、井坪坂、十五里尾根は登山道とし
て残る。しかし平成23年の新潟福島豪雨に
より丸の沢出合いから井坪坂登り口までは
荒れている箇所がある。さらに濁沢、檜倉
沢の砂防堰堤工事で道路は変わり、丸の沢
堰堤工事により出合付近の様子は様変わり
し、以前の趣は無い。一般車は濁沢分岐で
通行止めとなっている。また、開削後、間
もなく廃道となった清水越え新国道は数化
しているものの、所々に道跡、石積、橋脚
などが残っていると調査記録がある。
（参考資料 上田村郷土史、谷川岳山岳資
料館清水越えの歴史）

海山をつなぐ北山街道

廣井博行

谷根史詩によれば四方を山に囲まれた谷
根は交通の難所で大昔の米山街道は小杉か
ら谷根を経て川内への山越えだった。柏崎
の発展につれて北山から峠を越えて鯨波に

出るとある。

柏崎の谷根と鯨波の薬師堂海岸を結ぶ約
3キロの峠道がある。地元の古道として谷
根地域で伝承されてきた「北山街道」であ
る。戦国時代に上杉謙信が通ったといわれ、
明治時代初期まで米山講や農作業の行き来
に使われたという。しかし、薬師峠を越え
る不便もあってか明治23年に峠の中腹から
鯨波まで手掘りのトンネル道が完成。以来
北山街道を通ることはほとんどなくなり、
トンネル道も廃道となっている。現在はキ
ノコ採りの人位しか足を踏み入れない。薬
師峠には茶屋跡があり酒の神の神社が建っ
ていたとされる「松尾」の地名や「外寺屋
敷」といった呼称が残る。沿道に薬師如来、
如意輪観音、二三夜塔など石の建立物が多





い。いくつかは中越地震などで倒壊したが、かつての信仰を忍ばせる。

2021年8月15日、小雨の中、谷根から北山街道に入る。こちら側は地元の人々の努力で時折整備されているので歩きやすい。馬、牛なども通ったのだろうなどと、思いをはせる。

道幅は広く2m位はあるのだろう、杉の大木が両側に規則よく立っている。50分で薬師峠に着く。植生は檜の木が中心の混雑林だ。ここからしばらくは平坦な道が続く。展望はまるでない。やがて道も敷化して歩きにくい。道も不明瞭になってくる。その後、川に突き当たる。そのまま川に沿って下っていくと国道8号に出た。約1時間30分の古道歩きだった。

登山用GPS

地図アプリについて

佐久間 雅義

一昔前は、ガーミン社のGPSとカシミールでルートを作成したり、軌跡を録っていました。最近はスマホの画面が大きくなり、地図が見やすい登山アプリを愛用しています。アプリの特徴は、事前に地図をダウンロード（キャッシュ）しておけば、「圏外」でもGPS機能を使って現在位置を表示出来る事です。勿論軌跡も記録できます。どの登山アプリが自分に合っているかは、自分の目標とする山登りの好みとソフトの使い勝手と使用料金のトータルで判断できます。使用上の注意点は、1. 地図読みは自分の責任であり、アプリは現在位置を精度の範囲内で表示する事です。2. 電源の確保が必須です。長い山行では機内モードを使い予備バッテリーとケーブルを準備します。3. 電池はリチウムでもスマホの温度が低下すれば機能を失います。冬場は暖かくして使います。

私の目的は、残雪期の道のないルートを安全に登降して頂く事です。今はGeographicaを使用しています。女房と山へ行くと彼女は「ヤママップ」で他人の軌跡を表示させて、そこに自分の現在地を表示させて楽しんでいきます。

アプリの比較は、ネットで「登山用GPSの地図アプリ比較」と検索すれば詳細がご覧になれます。登山アプリも使いこなしてこそ自分の物になります。そうすれば道

迷いの心配も無くなります。最後にSim無しスマホも、無線LANで地図を事前にダウンロードしておけば山で使えます。予備機として持参するのも一手です。Sim無しは、電波を探さないで電池が長持ちします。Geographicaの詳細は、<https://geographic.biz/> 開発者のサイトにてご覧いただけます。同様にyoutubeでも色々な使い方が、沢山でておりますので是非ご覧下さい。アプリの入口で心配な方は、佐久間までご連絡下さい。今回の日本山岳会の古道調査では、私は消えつつある峠道をGeographicaで軌跡を録る予定です。皆さんも是非使いこなして、快適に山へ行きましょう！

山行委員会からのご案内

山行委員長 渡辺 茂

令和3年5月22日に開催された支部総会において、これまでの集會委員会を山行委員会に名称を改め、共益事業に係る登山活動の企画・実施・支部会員の交流・親睦などに取組むことになりました。令和3年度の活動は次のように計画しておりますので多数の参加を期待しております。

令和3年度山行委員会活動計画について

1. 御神楽岳 1386.5m

下越の谷川岳と称される御神楽岳、今回は紅葉真っ盛りの容易に登れる室谷コースからの往復、山頂直下からは御神楽岳の岩稜帯を覗き、遠くは磐梯山や尾瀬の燧ヶ岳を望むことができます。

・日時：令和3年10月17日（日）
・ルート：室谷集落→室谷コース登山口→御神楽岳山頂（往復）

2. 歴史探訪「塩の道」を歩こう。

塩の道の起点である糸魚川駅から平岩駅までの歴史探訪「塩の道」を企画しました。日本海の眺望と紅葉の古道を楽しみながら平岩駅まで歩いてみませんか。

・日時：令和3年11月6日（土）

～7日（日）

・ルート：11/6、祈りが息づく、清廉の道／しろ池→角間池→大網峠→平岩駅
11/7、大地を感じる、眺望の道／糸魚川駅→根知駅

3. 北岳1472m

この北岳は会津と越後の県境にある鬼が面山の脇のピークです。越後の豪雪地帯で雪は豊富、標高950m地点までは急斜面ですが、その後は山頂直下まで原生林の緩やかな斜面で広尾根、残雪に輝く守門岳や魚沼の山々を眺めながら楽しく登れる山です。

・日時：令和4年3月13日（日）

・ルート：浅草山荘→958m→北岳山頂（往復）

*新潟県内でも新型コロナウイルス感染が増加傾向にあり、収束の目途が立たない状況ですが、今後の感染状況を見極め、実施可否かを判断したいと思っております。

*御神楽岳、北岳については新潟県山岳協会との合同開催となります。

登山セミナーの開催について

YOUTH委員長 玉木大二朗

支部YOUTH委員会では事業委員会と合同で、新会員募集推進、山岳知識の研鑽、会員間の交流促進等を目的に今年度4回の登山セミナーを開催予定です。支部YOUTH委員会は令和元年度に次世代を担う若手会員の交流と新たな会員募集の推進を行うため、本部の指導を仰ぎつつ発足しました。しかしながらこの2年間はコロナ禍の影響により、支部のほとんどの活動は中止せざるを得ない状況が続いています。このような中、企画力だけは維持していきたい、コロナを言い訳に組織力を衰退させてはいけないとの思いから、支部長をはじめ各役員との意見交換を行い、支部会員や支部以外の山岳関係者による情報発信の可能性を模索し、まずは企画はしっかり行いコロナ禍の情勢によっては中止もやむなしとの方針を立てて、この度の登山セミナーを開催するにいたしました。ここに登山セミナーの開催をご案内申し上げます。

第1回セミナー 令和3年9月12日
(日)、講師・遠藤俊一支部会員(新潟県山岳協会副会長)、演題「回想の三百名山懐かしき山々」、日本三百名山登頂記及びエピソード等を紹介

第2回セミナー 令和3年10月31日
(日)、講師・佐藤レイ子支部会員(「越後百山」著者)、演題「越後の山から世界の山へ」、越後の山を極め地元の山の魅力を執筆・発信、数度に渡る海外遠征登山の経

験を基に、越後の山の魅力、世界の山の魅力を紹介

第3回セミナー 令和3年12月12日
(日)、講師・(株)石井スポーツ新潟店山里寿裕店長、演題「登山用品・来店のお客様等の変遷について」、石井スポーツの歴史、お客様の移りかわり、登山専門製品と一般衣料製品の相違、お薦めの登山アイテム等の紹介

第4回セミナー 令和4年1月16日
(日)、講師・玉木大二朗支部会員(前新潟県警察山岳遭難救助隊長)、演題「山岳遭難救助事例紹介について」、山岳救助隊の実態、遭難現場からのレポート、今だから話せる特異な遭難事例等を紹介

会場・開催時間等 4回とも、新潟市西区内野町413番地「新潟市内野まちづくりセンター」(電話025-378-4450) 研修室2及び3、受付：午後1時10分、開演：午後1時30分、定員25名程度(支部会員以外の参加も歓迎)、申込み方法 下記申込み先まで、はがきもしくはファクシミリ

申込み先 〒950-2022 新潟市西区小針1-21-4 小山一夫(副支部長・支部事業委員長)、電話及びファクシミリ 025-265-4417

なお、9月12日(日)の第1回セミナーは新潟県内におけるコロナウィルス感染者の拡大により蔓延防止対策のため中止となりました。第2回以降のセミナーは日程及び講演内容を変更することなく準備を進めていますので、関心のあるセミナーを選択

して参加申込みをお願いします。

支部の動き

事業委員会

事業委員長 小山一夫

令和3年度の事業計画はコロナ感染の猛威中で全ての計画を中止しました。2年連続の中止に「公募登山・平日トレッキング」参加者の皆様に大変なご迷惑をおかけしたことにお詫び申し上げます。

YOUTH委員会と一緒に計画している「登山セミナー」の9月12日の第1回目もコロナ感染の影響で中止しました。

「公募登山・平日トレッキング」の参加者の皆様には、令和4年度より再開すると連絡しましたが、一日でも早くこの危機的状況を脱して、山を楽しむことが出来る日を迎えることを願っています。

山岳古道調査の動き

越後山岳古道プロジェクトリーダー

後藤正弘

本部との打ち合わせ(8月10日・ズーム会議)で、テンプレート「ひな形」やパンフレットが8月末までに支部に配布されることや、第2次調査対象古道の選定期間は12月となることが明らかになりました。

したがって、山岳古道調査に必携な地図アプリの習熟を目的として、「地図アプリ指導者講習会」(9月5日・長岡市)と、10月からはモデル古道において「各地区地

図アプリ講習会」を実施します。並行して「越後山岳古道のリスト」(地区別)作成を取り組みたいと思います。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。

事務局連絡

事務局長 小泉良夫

会員動向(8月26日現在)

会員数172名 会友5名

令和3年度支部会費納入のお願い

ほとんどの会員の方は納入いただいておりますが、まだ納入してない会員の方は、左記、振込口座へ入金お願いします。

公益社団法人 日本山岳会越後支部
振込口座 00560-3-103716

編集後記

コロナ感染が収まらず、支部の活動もほとんどが中止になっています。そのような中、恒例の高頭祭が高頭仁兵衛翁寿像の修復工事を兼ねて行われました。支部報32号では、この修復工事の中間報告が同像修復募金からの補助を受けて行われたため、1、4ページカラー、10ページでの発行となりました。

慣れない支部報の編集作業でしたが、寄稿のお願いにはすぐに対応頂き、比較的スムーズに編集作業を行うことが出来ました。協力頂いた皆様に厚く感謝いたします。

(佐藤高晴)